

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和5年9月分）

【製造業】

○製造業は、7月の鉱工業生産指数は前月比▲0.7%となった。ヒアリングでは、大手自動車メーカーの生産が好調なため、売上・利益とも大幅に増加しているとの声が聞かれた一方で、自動車の生産回復により、アルミの価格が想定以上に上昇しているとの声や、価格転嫁はある程度受け入れられるようになってきたが、了承されるまでに時間がかかるとの声、国内需要は堅調な一方、中国の景気減速により受注が減少傾向にあるとの声が聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、7月の鉱工業生産指数は、窯業・土石、パルプ・紙、家具、食料品、繊維工業で低下した。ヒアリングでは、価格転嫁により、利益の減少を最小限にとどめているとの声が聞かれた一方で、需要低下により売上が減少している中では価格転嫁は困難との声や、価格転嫁できない商品を廃番とし、利益率の向上を図るとの声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、8月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲17.6%となった。ヒアリングでは、人手不足対策として全自動の機械設備の導入を検討しているとの声や、工場を増設し、物流の合理化や増産を進めているとの声が聞かれた一方で、設備投資意欲はあるが、現在の経営状況では余裕がないとの声も聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、8月の販売額は、ドラッグストア、コンビニ及び百貨店・スーパーで前年同月比で上昇し、全体で同3.5%上昇となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上が好調との声が聞かれた一方で、値上げによる消費者の買い控えが影響し、売上は減少しているとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、8月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲25.3%、▲14.6%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、個人客、団体客ともに宿泊者数は前年より増加したとの声が聞かれた一方で、物価高騰により経営を圧迫しているとの声や、人材不足が深刻化しているとの声が聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、8月の制度融資実績は、7ヶ月連続で金額が増加した。金融機関からは、運転資金のニーズが旺盛であり、またゼロゼロ融資をはじめとした資金の借換え需要も依然としてみられるとの声や、物流2024問題について、今後の不安を払拭するため、事業者の資金確保の動きがみられるとの声も聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、8月の有効求人倍率は1.57倍と23ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、大手自動車メーカーの増産の影響により、人材確保競争が激しくなっているとの声や、物価高への対応や採用、離職防止の観点から、全社員のベースアップを実施したとの声が聞かれた。

【景気動向】

7月の景気動向指数（一致指数）は前月比0.3ポイント上昇、8月の中小企業の景況感と同3ポイント上昇となった。